

2021年度 長野県総合体育大会 第50回登山競技大会 講評

審査員長	竹内 一郎						
副審査員長	横澤 克彦						
審査員	青木 保奈美	浮須 由実	大西 浩	小沼 拓也			
	河崎 直茂	河竹 康之	坂本 侑哉	島田 嘉一			
	西野 祐司	藤井 岳大	藤岡 善弘	松宗 徹			
	三石 達也	三村 寛	森下 暁				

はじめに

昨年から続くコロナ禍の中、昨年はインターハイ、県大会が中止になり、学校単位で行われる山行の多くが実施できない状況が続いています。そんな中、本来先輩から引き継がれるはずである、歩行や読図、また生活技術が、後輩に引き継がれず、一番大切である先輩と後輩のつながり、技術や伝統の継承が危ぶまれています。少しでも、そんな機会を作ることを目標とし、コロナ感染拡大のリスクについて配慮しながらも大会の実施を計画してきました。宿泊場所や、競技の実施形態等は、各学校で参加された生徒にとって満足できる内容で無かったと思われそうですが、ご了承いただきたいと思います。

また、山域で実施される競技では大雨に見舞われたため、競技を縮小しての実施となりました。十分準備してきたことを発揮できないまま、競技を終えることに対して、悔しく思う生徒のみなさんの気持ちは、十分に理解しているつもりでありましたが、安心、安全に競技を行うことができないと判断し、縮小しての実施を決定させていただきました。

今回の大会は、多くの場面で想定外のことが起こり、急な対応をお願いすることが多かったと思いますが、それにも快く対応していただいたことに感謝しております。本当にありがとうございました。

登山競技は、競技として行う以上、順位がつくことにはなりますが、それよりも登山を愛する同年代の者同士が集まり情報交換を行い、互いに山を安全に楽しむことができる知識や技術を磨き、またそれを、先輩から後輩に引き継ぐことが一番の目的だと考えています。最近、登山に関わる部分でも、コロナ禍における新しい生活様式が注目されていますが、高校生にとって上記のことを実現する上で最も必要なことは、テントの中で密集し「同じ釜の飯を食う」時間だと思います。また、そんな時間や経験は、山を安全に楽しむことができる知識や技術だけでなく、高校卒業後の長い人生を支えてくれる仲間や思い出も作ってくれます。これまで当然の様に行えていた一緒にテントで泊まり、一緒に山を歩く期会が奪われ、私自身、初めて大切な時間であったことに気づかされました。

次年度以降は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収束し、通常的生活はもちろんですが、宿泊を伴う山行が安心して実施でき、大切だった時間が戻ることを祈ります。

I. 体力 (15点)

1. 総合体力点 (15点)

(1) 規定時間について

男子…6時間00分 (スタートより6時間00分を超過すると0.5点減点、以後2分につき0.5点減点とする)

女子…6時間30分 (スタートより6時間30分を超過すると0.5点減点、以後2分につき0.5点減点とする)

*規定時間経過後、58分00秒以上で総合体力点は0点となる。

スタート：ジュネス アネックス2号館 グランド

男子・女子正規… 6:00 正規チーム以外の男子B以下… 6:10 オブ… 8:00

ゴール：富士見高原リゾート スキー場 (リフト券売り場)

規定時間 (得点無しになる時間) 男子… 12:58:00以降 女子… 13:28:00以降

※秒の少数は、切り捨て、ゴールの認定時刻は、競技地図と行動記録を審査役員に提出した時刻

(2) 競技打ち切り時間について (スタート時間より)

西岳山頂 : 男子…3時間30分後 女子…4時間00分後 (男子9:30、女子10:00)

網笠山山頂 : 男子…5時間00分後 女子…5時間30分後 (男子11:00、女子11:30)

<上記時間後に後に通過できない場合>

競技打ち切りとし、打ち切り以前の歩行点、地形点、記録点は無効とし0点とする、以後の審査はしない。

打ち切り時間までにそれぞれの地点を通過できないチームは、役員の指示に従って行動する。

(3) 重量規定について：今年度は、設けない。

2. 特区分：今年度は、設けない

※荒天のため実施内容を下記のように変更を行いました。

<実際の競技内容>

スタート : ジュネス アネックス2号館 グランド

男子・女子正規… 6:00 正規チーム以外の男子B以下… 6:10

折り返し地点：信玄の隠し岩 (分岐点の広場) 1685m付近

ゴール : ジュネス アネックス2号館

II. 歩行 (9点)

【審査項目】

歩行バランス・チームワーク (チーム内の間隔)・パッキングの状態・山行に適した服装

【講評 (体力・歩行)】

※今年度は、コースの距離が非常に短かく体力点で差が出なかったで、体力・歩行の2観点の講評を一緒にいただきました。

今回は、コースが短縮されたため、多くのチームが元気良く歩く姿が見られました。ほとんどのチームに大きな減点はありませんでしたが、今後の山行の際に注意が必要と考える点を以下に挙げたいと思います。

・地図を持って歩く:歩行中は、歩行に集中する必要があるため、地図を持ってしまうと、目が地図に動き危険です。

・首からのぶら下げ (サコッシュを含む) :木にひっかかることでバランスを崩し危険です。

・ザックカバーが合っていない:サブザックにメインザックのザックカバーをつけると、風であおられると飛んで行ってしまふ危険があります。ザックのサイズに合わせて使用しましょう。

・登山中のザックについて (ナップザック) :ナップザックは、安定感が悪く、行動する上で危険です。

登山にあわせたザックを用意しましょう。

Ⅲ. 地形 (9点)

【定点】

1 地点 1.5 点 12 地点設置

※荒天のため実施内容を『1 地点 1.5 点 6 地点設置』に変更を行いました。

【講評】

尾根、沢、屈曲など顕著にわかる箇所によくのポイントを設置しました。区間が短かったこともあり、多くの学校で良くできていました。1 箇所、周囲の地形の変化から読み取らなければならないところがあり、難しく感じた学校もあったようです。登山道の「線」だけを意識するのではなく、地形全体を「面」で感じながら歩くように心掛けましょう。

Ⅳ. 装備 (10点)

1. 個人装備 (6点)

【審査項目】コンパス・計画書 (防水)・呼笛・ヘッドライト (電池絶縁)・ナイフ・細引き

2. 共同装備 (4点)

【審査項目】ツェルト・医薬品 (体温計・消毒)・修理具 (ペンチ・プライヤー・針金)
ラジオ (絶縁・防水・動作確認)

【講評】

- ・防水については、薄いものではなくジップが付いているものなどを使用しましょう。買い物袋 (プラスチック) を縛るだけでは、十分な防水と言えません。タッパーで防水を行っている学校もありましたが、中には閉まらないものもありました。防水効果を確認し、持参するようにしてください。
- ・個人装備は、全員が持参するようにしましょう。緊急事態に備え、準備しておく必要があります。
- ・ヘッドライトや、ラジオ等電池で動作するものには、未使用時は絶縁が必要です。電池を抜くか、プラスチック片などを電池の間に挟んでおくのとよいでしょう。予備電池についても、必ず防水及び絶縁を行うようにしてください。

V. 生活技術 (10点)

1. 設営 (5点) 5 項目×1 点 評価は 0.5 点刻み

チーム一斉に 10 分間でテントを設営し、次の項目について審査する。(雨天、荒天時の設営を想定)

【審査項目】

<設営中>

① チームワーク・手際 ② ザックの雨蓋等の処理、フライや袋もの処理 ③ ペグを打ち方

<設営後の確認>

④ ・ペグ (本数足らず・方向、角度違い・位置違い・打ち込み過ぎ・打ち込み不足)

- ・張り綱のテンション (テントやフライ、それらのファスナーにも無理な負荷がかからない、一部でも地面に埋没しない。)
- ・本体とフライの距離

⑤ テント内の整理整頓、ハンマーやザックの収納状況

【講評】

非常に強風の中の設営となり大変だったことも考えられますが、時間内に設営が終了せず、入り口が開いたままのチームもありました。また、グラウンドが固く、ペグが効きにくい場所もありましたが、テントを固定することが目的ということを再確認し、しっかり固定するために、ペグが効くように打つようにしてください。逆に打ち過ぎで、ペグの頭が埋没しガイドロープが土の中に入ってしまった学校もあったので、注意してください。また、ハンマーの代わりに石でペグを打ち付けている学校もありました。ペグの頭がつぶれてしまうのでやめてください。

2. 炊事：今年度は、実施しない (新型コロナウイルス感染拡大防止のため)

VI. 気象 (7点)

1. 天気図作成 (5点)

気象通報を聞き取り、放送を含め 40 分で天気図を作成する。

等圧線は 2hPa (4hPa は不可) ごとに書く。

2. 設問 (2点)

気象関係の設問を解答する。「登山部報」の統一学習資料から出題。時間は 5 分間。

【講評】

スマホ等の普及により、天気図作成の意義が薄れつつ有る昨今です。しかし、スマホを見ているだけでは“気象”に関する知識は得られないと思います。天気図を日常的に作成することで、天気に関する興味が湧き、更なる知識が得られると思います。

天気図の作成は決して難しいものではありません。うまく作成したいのであれば、先述したように毎日書いてください。意外なことに皆さん、高校生のうちに天気図作成をマスターしておけば、その後のブランクがあっても、一生書けるはずです。

試験と同じで、大会直前になってからでは無く、日常的に天気図を書く習慣を身に付けられればどうでしょうか？

VII. 知識 (5点) 以下の①～④の項目から出題。時間は 20 分間。

【出題項目】

- ① 八ヶ岳 (編笠山、西岳) に関する事前配布資料から出題
- ② 地図記号等地図から出題
- ③ 登山用語
- ④ 救急処置

【講評】

・男子平均 3.9 点、女子平均 4.0 点で、満点のチームもあり、比較的良く事前学習をしてきたチームが多かったと思います。特に設問 7 (登山用語に関する出題) では、ほとんどのチームが全問正解でした。

・設問 1～3 の地図記号に関する問題での誤答が目立ちました。地形図の下の部分に凡例があるので事前に活動範囲にある記号について確認してほしいと思います。また、今回は選択式で登頂を予定する山の標高を出題しましたが誤答が多かったです。登頂を予定する山の標高を調べることは、実際に計画書を作成する上でコースタイムを把握するためにも重要です。ある程度の標高は覚えてください。

・救急では、用語を覚えるというよりどのような時にどのような対応が適切かを学習してください。また、逆にどのような処置が NG かを知ることも大切です。

VIII. 計画・記録 (10点)

1. 計画書 (6点)

【審査項目】

- ① 学校名
- ② 緊急連絡先(夜間を含む)
- ③ メンバーの生年月日
- ④ 保護者氏名・連絡先
- ⑤ 共同装備分担
- ⑥ 予備食の内容
- ⑦ 医薬品リスト(胃腸薬・使用法・使用期限)
- ⑧ 日程表(出発地から利用交通機関明記)
- ⑨ 手書きの概念図(方位・主要地点・縮尺・ルートの記事 ※同校内のコピー不可)
- ⑩ 断面図(標高・水平距離・主要地点・縮尺)

【講評】

今回は、上記の①～⑩項目について審査しました。

- ①：全ての学校でOK
- ②：学校としての緊急連絡先が書いていないチームがありました。
- ③：全ての学校でOK
- ④：保護者の氏名を記述していないチームが数チームありました。
- ⑤：分担を記述していないチームが数チームありました。
- ⑥：予備食と非常食を一緒に書いているチームがありました。
- ⑦：胃腸薬の記述無し(3チーム)、期限無し(3チーム)、薬品の記載(1チーム)が無いチームがありました。
- ⑧：交通機関の記載が無いチーム(2チーム)がありました。
- ⑨：縮尺無し(5チーム)、方位無し(3チーム)のチームがありました。
- ⑩：縮尺無し(2チーム)、標高無し(2チーム)のチームがありました。

②③④⑥⑦⑧は、緊急時に必要な事項です。また、⑨⑩はプランニングのために必要になります。

いずれも共通して言えることは、『危機管理』です。

つまり、計画書を見れば、そのチームの危機管理能力がわかります。

安全で楽しい登山を進めるためにも、これを機会に危機管理能力を高めていきましょう。

2. 基準記録用紙 (4点) 各1点×4地点(評価は0.5点刻み)

特定の地点について、地点名、到着時刻、天候、各人の体調、主な動植物、記事(地形、展望、出来事等)などの特定項目が記載されているかを審査。

【定点】

- ① ジュネス アネックス2号館 グランド(スタート)
- ② 第五配水池
- ③ 三角点(1477m)
- ④ 信玄の隠し岩

【講評】

登山記録は、後日同ルートを歩く他者が閲覧し、計画を立てる際に参考にします。また、同じ場所へ行くことがあれば、コースタイムを比較することで、自分やチームのメンバーの体調を把握することができるものです。そのため、後で誰が見ても分かり、参考にできるものにするように心がけましょう。

主な地名は正確に記すことと、記録用紙に載っている項目はすべて記入することが原則です。また、山頂(今回はありません)や三角点では、標高を記事の中に必ず記載してください。

地形審査の定点(フラッグ)は記録する必要はありません(定点は競技時のみ設置されるものからです)。特徴的な人工物・地形や分岐などを記録しましょう。